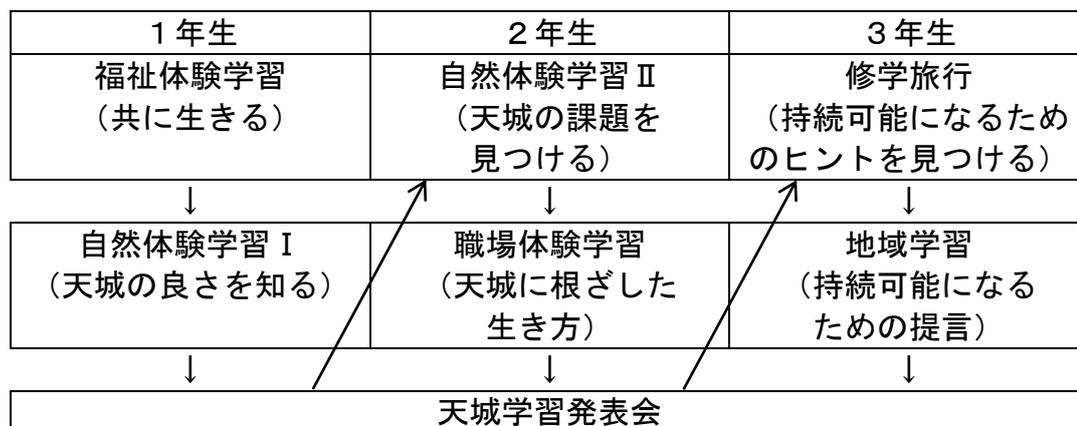




### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容



### 「天城学習」～問いの連続、そして、自分なりの解決策・自分なりの行動へ～

#### 天城学習のねらい

「地元天城のよさを知るとともに、天城の課題を取り上げ、今後ずっと天城が誇れるふるさととして持続していくためにはどうしていったらよいかを考え、行動する」学習を通して、

- 自然や社会の「多様性」や「有限性」等について理解し、持続可能となるためになすべきことを意思決定し、「責任」をもって行動するようになる。(ESDの理念)
- 地域を愛し、誇りに思う心情を涵養することで、自尊感情を高める。
- 考えや意見を伝え合い、高め合うよさを実感することで、「他者と協力する態度」や「コミュニケーションを行う力」を育む。

**起** ○ 人としてそこに生きるには・・・(原点) 人と環境との共生

#### 1年生

##### 『福祉体験学習』

3年間の天城学習のスタートとして、「福祉体験学習」を行った。持続可能な社会の原点は、「共生」である。お年寄りや障害を持つ方とのふれ合いを通して、中学校で、家庭で、地域社会で、よりよく共に生活していこうとする意欲や態度を育むことをねらいとしている。具体的には、近隣の6つの福祉施設に分かれて訪問した。施設の方々の作業の手伝いをしたり入所者の方々と小物づくりや折り紙、木工等の作業をしながら楽しく会話をしたり、或いは訪問グループで協力して「金太郎」や「さるかに合戦」等の手作りの紙芝居、「桃太郎」や「水戸黄門」等の劇、「赤とんぼ」「ふるさと」「荒城の月」「夕焼け小焼け」等の歌を披露したりして、とても喜んでもらうことができた。また、この取り組みを通して、クラスの仲間との絆を深めることができた。

### 『自然体験学習Ⅰ』

伊豆半島ジオパーク推進協議会や天城自然ガイドクラブの皆様のご協力を得て、「自然体験学習」を行った。初日は、八丁池までのハイキングを行って、天城の自然の豊かさを体感した。2日目は、最初にジオリアを見学して伊豆半島の成り立ちの基礎を学んだあとで、旭滝、船原スコリア丘などの火山地形を観察し、天城の成り立ちを自分たちの目で確認した。学校に戻ってからの火山の噴火のモデル実験では、身近な素材なども用いて、3種類もの実験を体験することができた。

- 承
- 地域の良さ、自然のよさは永遠だろうか・・・過疎化（廃屋放置・・・）、高齢化、自然環境の変化（食害、森林放置・・・）、課題があるぞ・・・
  - 地域の人たちは、課題にどう立ち向かっているのか・・・天城ブランド（椎茸、わさび等）の維持・立ち上げ、観光資源の維持・発展、ジオ、猟師の方々の思い・考え、シカ肉販売、スポーツ大会等の誘致・・・地域の人たちは頑張っている、もっとこういう取り組みが広がらないか・・・

### 2年生

#### 『自然体験学習Ⅱ』

初日の午前中は、「天城の自然と課題」「伊豆半島の成り立ち」「皮子平の昔と今」というテーマで、講話による学習を行った。午後は、伊豆近代文学博物館、井上靖旧邸、洪作少年が歩いた道、井上靖記念室（旧湯ヶ島小学校）を訪ね歩いた。2日目は、皮子平へのハイキングを行い、天城の自然のすばらしさを実感しただけでなく、シカの食害による森林被害などを目の当たりにし、大きな課題があることにも気付いた。この活動の後には、地域の人たちはこのような課題にどう向き合っているのか、天城には、他にどんな魅力や課題があるのかなどについて追究していった。

#### 『職場体験学習』

旅館・ホテル・サービス業、林業（伊豆森林管理署）、製造業、販売業、こども園、消防署、FM局等の13の事業所にお世話になりながら、「天城に根付いた仕事をしていくためにどのような工夫をしているのか」について学習してきた。天城地区への観光客の減少が危惧されているが、観光業の中核である旅館では、お客様にリピーターになっていただくために、都会では味わえない「空間」を演出していること、「掃除」を極め細やかに行っていること、常に「おもてなし」の心と「笑顔」で対応していることなど、努力していることを学んだ。また、製造業、販売業では、地元天城の魅力を活かした製品の販売を行うために、様々な工夫をしていることに驚いた。3日間の体験ではあったが、地元の職場について詳しく知るとともに、社会人としての資質や能力について肌で感じ、今の自分の姿を振り返るよい機会にもなった。

- 転
- ずっと持続している古都（奈良・京都）のよさ・すばらしさを体感し、あらためて天城を想うとき、ふるさと天城が持続していくためには何が利点か、何が必要か、何ができるか・・・

森林放置を何とかしたい・自分も整備したい、天城で木質バイオマス活用ができればうれしい、修善寺温泉のように旅館の中だけでなく町全体の景観を整えたい、美しい溪流をもっと活かしたい、自然を活かした若者が集う場所をつくりたい、田舎暮らしをしたい人のために情報発信したい、狩野川沿いに河津に負けない桜並木をつくりたい、全国レベルの天城のゆるキャラをつくりたい、天城を活かした食べ物（B級グルメ、お菓子、ケーキ・・・）を創作したい、シカ柵の効果を訴え拡大したい、シカ肉販売を拡大したい、自分が猟師になってみたい・・・

### 3年生

#### 『修学旅行』

「古都から学ぼう～築き上げられた日本の歴史を～」というスローガンのもと、古都として、観光都市としてずっと持続している奈良・京都の魅力は何なのかを探ってきた。

班別研修では、海外の人から古都京都がどう映っているのか、魅力は何か等を聞くために、外国人観光客へのインタビューを行った。班ごとに事前に準備した英語での質問をして調査するとともに、一緒に写真を撮るなど、国際交流を積極的に行った。

また、京都らしい食べ物や飲み物を、積極的に味わうよう心がけた。雅楽の鑑賞を行い、日本の伝統文化に触れた。

さて、このように古都の魅力を実感してきた3年生があらためて天城を想うとき、ふるさと天城の魅力は何か、魅力をより発揮するために何が必要か、そこに課題があるとすれば、解決のために私は何をしたらよいか…、各自問い直し、テーマに沿って再び天城地区、伊豆市での調査活動を行った。

**結** ○ふるさと天城が持続していくため、今、実際に何が進められているか、進めるためには何が障害になっているのか、何も行われていないのか・・・調べ、その上で自分がやりたいこと、自分にできること（行動化、市や観光協会・事業所への提言・・・）は何か・・・

⇒行動

創作シカ肉料理をつくってみた、シカの皮や角をつかった製品の商品化について提言してみた、木質バイオマス発電について提言してみた、桜並木の候補地を探してその予想図を描いて区長に提言してみた、植林活動に参加してみた、田舎暮らしをしたい人を募集する企画を提言してみた、観光協会の方と相談して湯ヶ島の湯の道清掃をグループで始めてみた、修善寺温泉復活の例を天城の温泉に当てはめて方策を考え提言してみた、ゆるキャラをつくってみた・・・

### 3年生

#### 『地域学習』

天城学習のテーマの「自分なりの解決策を見つけ、行動する」ために、最後のインタビュー・調査活動を「地域学習」として行った。個人またはグループで、次のような課題に対して地域で探り、整理してまとめていった。本年度は、「京都から学ぶ観光地としての在り方」「天城を豊かにするために」

「天城ならではの風景を残すために」「オリンピック・パラリンピック開催へ向けて」「観光客を増やすために」「伝統文化を伝える伊豆梯子会」「天城の山の魅力」「自然を活用する」「伊豆半島の水資源を観光に利用する」「ジオパークを使って伊豆市の観光を活性化させよう」「文学者の愛した伊豆」「狩野派を求めて人々が天城に来るためには」「天城の食材を使って」「伊豆という地について」「伊豆市に福祉の輪を広げよう」「伊豆市の目指すべき将来の姿」「ゴミ拾いを体験して」「天城の魅力を発信しよう」の18課題に取り組んだ。

## 『天城学習発表会』

12月10日(土)に、天城会館にて「天城学習発表会」を行った。午前・午後と各学年の全員がプレゼンテーションを行い、これまでの天城学習の成果を発表した。市長様、体験活動でお世話になった事業所等の方々、地域の皆様、保護者などに加え、本年度は北海道など、全国各地からのお客様も迎え、多くの皆様に聴いていただいた。

各学年の発表内容は、次のとおりであった。

### 1年生

福祉体験をさせていただいた施設ごとに発表があり、施設の方に楽しんでもいただいた劇なども披露した。「共生していくためには、相手を理解し、相手の立場になって考え行動することが大切」という学びがあり、身近な社会で気持ちよく暮らすためにはどうしたらよいのか、自分自身を見直すきっかけになっていた。「身近な人から聞いた、ちょっと前の天城」の調査の発表は、天城の変化を知り、今後を見とおすためのよい資料となった。さらに自然体験では、船原スコリア丘から天城の成り立ちに思いを馳せたり、八丁池へのハイキングをとおして「身近なところにこんなにも豊かな自然がある」のを誇りに感じたりすることができた。この豊かな自然をどのように守っていったらよいのか、次の課題の追究も、既にスタートをしている。

### 2年生

自然体験では、皮子平へのハイキングから、シカによる食害をテーマにした発表が中心となった。シカの食害については、捕獲頭数は増加していても生息密度が増えている現状や、その対策として、イズシカを特産物にしてより流通量を増やしていくことなどを説明した。職場体験では、13事業所に渡る体験先ごとの発表があった。小売業や観光業では、顧客数の減少に対して、サービスの質の向上や新商品の開発、天城のよさをPRする活動を自分たちで行っている実践などを取り上げた。3年生になって、課題に対して自分たちに何ができるのか、資源をどう生かしていったらよいのか、さらに追究していくための基礎となるまとめを行うことができた。

### 3年生

天城にある、ひと・もの・ことの資源をさらに掘り下げ、その活用について提言したり、修善寺地区など他地域の活性化について学んだことを天城に適用してみたり、観光客に直接インタビューして改善点などを探ってみたり・・・、個々のテーマに沿って追究し、天城がいまよりも活性化していくための多岐にわたる実践が報告され、提言が行われた。

テーマは、前述の18だが、一つ一つ、どれをとってもこれからの地域の維持や活性化につながるすばらしい内容で、来場者から大きな拍手を受けた。

## **発表会及び天城学習の総括**

今年の天城学習発表会には、本校が初めてE S Dに取り組んだ平成23年度の卒業生に参加してもらい、その頃の様子を発表していただいた。生徒にとっても、職員にとっても、脈々と続く自分たちの活動の原点を振り返り、今後に向けて、いっそう強い思いを持つための有意義な時間となった。

また、ご来場いただいた皆様からのアンケートでは、「このような学習活動を中学3年間通してできることは、とてもよい経験になると思いました。生徒がそれぞれテーマを持ち、学習を進めていけること自体すばらしいですが、地元の自然や文化の良さ、課題、それらを今後どうしていくかを様々な広い視点で考えることができている、本当によい活動だと感じます。また、こういった活動が、伊豆地域の多くの学校に広まってほしいと思います。」などのお言葉をいただいた。

天城学習が、地域の方々との連携をより深め、行動にも結び付いていくような充実した学びとなるように、なおいっそう励んでいきたい。

